

青山アクション・ラーニング

MBAプログラムは、経営を「マーケティング」「組織マネジメント」など機能別に分けて学習していきます。しかし、実際の経営では、それらすべてを考慮して総合的に意思決定しなければなりません。そうした経営能力を育成するために開発されたのが青山アクション・ラーニングです。それらは、いずれも講義ではなく体験から学ぶように設計されています。2年目に、次の8種類の科目(2019年度)を設置しています。

Management Game

》マネジメント・ゲーム

本科目は、原則として学生4~5名1組で仮定の消費財会社の経営を行います。カーネギーメロン大学など海外のMBAスクールの学生との合同のビジネスシミュレーションゲームを行い、グローバルな競争を体験します。全ての資料は英語で、コミュニケーションは主に電子メール、Webを通じて行われます。本科目の目的は、マネジメント、マーケティング、財務、会計、オペレーションといった会社機能の全体を把握するとともに、経営者が直面する諸問題(経営計画の策定、取締役会での発表と承認、リスク管理、チーム内の動機付け、株主への情報開示など)を実際に経験することにより問題解決能力を向上させることです。



Business Analysis and Fund Management Simulation

》企業分析とファンド・マネジメント・シミュレーション

本科目は、公益社団法人日本証券アナリスト協会の寄附講座です。また、本研究科のMBAプログラムで修得した知識(特にファイナンス・アカウントティング分野の知識)の総まとめ的役割を果たす科目の一つとして位置づけられています。

具体的な講義内容は、アナリストレポートの作成と日本株アクティブ運用の擬似体験を行います。講義を通じて財務分析・企業戦略分析の能力の向上を図るとともに企業価値評価の方法を習得することを目標とします。さらにポートフォリオの組成を通じて、銘柄選定方法を学ぶとともに、ポートフォリオ管理のためのリスク分析の考え方、パフォーマンスの評価の仕方について学びます。



Advanced Corporate Communication

》アドバンスト・コーポレート・コミュニケーション

企業(主に上場企業を念頭に置いています)のコーポレートコミュニケーション・オフィサーになるために必要な事項をロールプレイング方式も取り入れながら会得できるようにすることを目的としています。具体的には、①企業の広報活動(PR)の理解、②証券アナリストや機関投資家の投資分析方法の理解、③投資家広報(IR)の理解、④企業のCSR活動の理解、⑤企業の財務政策についての理解、⑥長期の企業価値向上策(長期経営計画)やガバナンス体制の理解、⑦企業情報開示(統合報告やアニュアルレポート含む)の理解、⑧ソフトウェアの開示政策の理解、というプロセスを経て、最後に総合的なプレゼンテーションをチームで行っていきます。

Marketing Planning Project

》マーケティング・プランニング・プロジェクト

ブランディングやチャネル政策、コミュニケーション政策など、実際の企業のマーケティング上の課題に対して、チーム毎に調査・分析を行い、組み立てた解決策をその企業へ提示します。そのプロセスは、企業からのオリエンテーションで始まり、顧客のニーズを定量的および定性的に調査・分析したり、自社製品や競合製品を消費者の立場で使用したり、フィールドワークを多く実施します。また、先進事例の研究、マーケットリサーチ、デザインシンキングなども行い、提案内容を吟味していきます。最終的には、企業へ提案内容のプレゼンテーションを実施して、企業から評価を受けます。企業が提案内容を実際に実施する可能性があるため、企業側も真剣に対応してくれ、リアリティの高い学習が繰り広げられています。

Business Planning

》ビジネス・プランニング

実現性の高い新規ビジネスの事業計画を少人数のグループで作成し、ベンチャーキャピタルやエンジェルに提出可能なレベルまで完成度を上げることにより、近い将来、社内起業も含めたベンチャービジネスの起業を目指す能力を養成します。特に、実現性の高いビジネスモデルの開発とその発展フェーズごとの経営管理やマーケティング戦略に焦点を置き、顧客現場を重視した肌で感じるビジネス創出を目指します。起業家やエンジェル、ベンチャーキャピタリストを招き、実務的な評価を受けることにより、起業家精神を養成します。



青山アクション・ラーニング

Finance & Technology

》ファイナンス&テクノロジー

第4次産業革命といわれる技術革新がコンピュータ技術を中心として進行しており、この技術革新の波は既存の産業構造をも溶解しつつあります。金融部門においても金融(Finance)と情報技術(IT)(Technology)を合わせたフィンテック(FinTech)という言葉が新聞で見ない日は無いほどになってきており、既存の金融機関や新規企業が新たな金融サービスを提供すべく覇を競っています。

経営管理者を養成するビジネススクールは、この技術革新と無関係ではありえません。ビジネススクールは技術者を養成する機関ではありませんが、この技術革新の動向を理解しなければ長期的には経営方針を策定することは困難でしょうし、短期的にも日々の企業運営を効率的に行うことは困難になってきています。この科目では、現在進行中の技術革新を理解することができる経営管理者の養成を目指します。



Internet Business Project

》インターネット・ビジネス・プロジェクト

ITとネットが、業務の運用だけでなく、経営戦略の実現に必須の時代になっています。その中で、eコマース事業の構想とその実現についてプロジェクト学習を通年で行います。

プランニングだけでなく、実施に至るまでのさまざまな関門、また、実際の展開をする上でのさまざまな考慮点などを、変化するITを使いこなすことを意識しながら、自分の能力として身につけられるようにストーリーセンター方式で学習していきます。ビジネス戦略、ネットマーケティングと顧客獲得、eコマースとWebサイトの具体的な立ち上げと運用、関連するいろいろな技法、プロダクトのアピールと評価など、MBA2年間の総仕上げを意図して進められます。



Project Report

》プロジェクト・レポート

本科目は自ら選定したプロジェクトテーマに関するレポートの作成を目的とする科目です。レポートの指導は教員2名が共同で行います。レポートの内容は担当教員2名のうちいずれかの教員が所属する領域に相当する内容とします。

本科目では履修期間を通じ、今後ビジネスパーソンとして活躍する上で不可欠な、データ分析およびレポート執筆等の能力を身につけることを目指します。

※2019年度・2020年度休講の科目となります。

プロジェクト・レポートのテーマ例

- 「アスリートキャリアからビジネスキャリアへの移行要素」
- 「高血圧治療薬における医薬品ライフサイクル・マネジメントの有効性 — ナショナルデータベースによる実証分析」
- 「日本企業におけるグローバル人事制度 — 総合商社と製薬会社の比較分析」
- 「国内製薬企業リサーチャーのコンピテンシー・モデルの変遷」
- 「ホテル産業における顧客満足と従業員満足ならびに利益創出の連関性について」

各「学生体験談」は、ホームページをご覧ください。

<http://www.aoyamabs.jp/programs/globallearning.html>